

獣医学教育モデルコアカリキュラムの目指すもの

応用獣医学分野コアカリキュラム

○田村 豊 酪農学園大学獣医学部

わが国の獣医学教育と欧米の先進諸国で行われている獣医学教育と比べると、応用獣医学教育、特に公衆衛生学教育が極めて不十分であることが指摘されてきた。「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」では、大学において共通的に最低限実施する必要があると考える科目を設定し、各大学における教育内容についてシラバスを中心に分析を行った。その結果、応用獣医学分野では、野生動物学、環境衛生学、獣医疫学等において大学によって教育内容が不十分であると結論された。そこで獣医学コアカリキュラムでは、食の安全に対する関心の高まり、人獣共通感染症の拡大等の獣医師に求められる社会的ニーズの高まりや国際通用性に配慮した全大学で共通的な教育内容を設定することを目指している。応用獣医学の講義科目としては、野生動物学、毒性学、動物衛生学、公衆衛生学総論、食品衛生学、環境衛生学、人獣共通感染症学および獣医疫学を設定した。コアカリキュラムは、各大学で講義を担当している教員を中心に先の調査研究協力者会議で議論された必要とされる履修内容を基に検討している。一方、実習科目については、講義科目に対して多くの大学で教育内容が不十分との分析がなされており、理論を実践に結びつけるような実習内容を設定することを考えている。実習科目の検討は、講義科目の検討が終えた後に開始する予定である。